

## えひめ農林水産業振興プラン2021（農業編）の進捗概要（令和4年度）

### 【基本施策① えひめ農業を担う「人づくり」

～えひめ農業を支える担い手を確保・育成します～

- 令和3年度は、新規就農者（40歳未満：自営+法人）を113人確保したものの、目標である「毎年180人確保」には届かなかったことから、令和4年度は、農業内外から担い手を更に確保するべく各種施策を推進しました。
- 地域をリードする女性農業者を確保・育成するため、「一次産業女子ネットワーク・さくらひめ」メンバーを令和3年度から7名増の134名に増強しました。
- 次世代の担い手への円滑な経営継承を促進するため、（公財）えひめ農林漁業振興機構からの専門家派遣を支援し、85経営体に対し指導・助言を行いました。
- 農業に力強く取り組む14市町・71経営体の認定農業者に対し、トラクターやコンバインなどの機械・施設整備を支援しました。
- 県内で781名のみかんボランティアや、県内外から25,245人役のみかんアルバイトを確保しました。今後は、外国人材受け入れに向けた支援も含め、更なる労働力の確保に努めます。

### 【基本施策② えひめ農業で輝く「モノづくり」

～競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます～

- 多様な担い手の規模拡大・所得向上につながる生産基盤整備を推進するため、災害に強く生産性の高い園地に再編する「再編整備・再編復旧」を計20地区で推進しました。
- 農業水利施設の長寿命化と機能強化を推進するため、豪雨時に湛水被害を防止する排水機など、計35地区の基幹的水利施設で保全対策工事を実施しました。
- 令和2年産の柑橘収穫量は全国2位であるものの、柑橘の栽培品目数は40種類で全国1位となっており、令和4年度も、「柑橘王国えひめ」を支える果樹産地の更なる発展を目指し、高収益化に必要な機械・施設整備の支援を計13地区で実施するなど、柑橘王国としてゆるぎない地位を維持すべく各種施策を推進しました。
- 県オリジナル品種「ひめの凜」について、生産体制の構築やブランディングを一体的に実施し、3JAで共同乾燥施設を整備し、県外消費者等に向けてキャンペーン活動を行いました。
- 収益性の向上に向けた野菜の生産体制強化に向け、いちごやさといも、きゅうりなど計8産地で、規模拡大や高品質化に必要な機械・施設整備を支援しました。
- 愛媛の魅力を世界に広げるため、輸出力を強化し、県が関与した県産かんきつの輸出量は過去最大の136.8トン（前年度比：28%増）に増加しました。
- 肥料高騰に伴う経費の増大が農業経営に大きな影響を与えていることから、肥料コスト低減に向け、土壌の簡易測定機器・資材を県の普及・研究機関に配備し、堆肥の有効活用を促すとともに、国の実施する緊急支援事業に対し、上乘せ支援を実施しました。
- 将来の5G（第5世代移動通信システム）整備を見越し、生産現場と普及指導機関等を高画質映像で結び、指導がリアルタイムで行えるよう、システム開発に着手しました。
- 動植物防疫措置の強化に取り組むため、豚熱の発生防止に向け、94戸の農家が飼養する豚・イノシシに予防的ワクチンを接種しました。

### 【基本施策③ えひめ農業を支える「地域づくり」

～競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます～

- グリーン・ツーリズム体験メニューを活用した体験者が100千人を超えるなど、地域の魅力を活かした多様な交流を促進しました。
- 学校給食への県産食材利用促進を目指し、県教育委員会や市町と連携したマッチングを実施するとともに、幼少期の子どもたちの料理体験を開催し、食育を推進しました。
- 住民交流や魅力発信など地域の活性化につながる地域住民主体の取組を促進し、地域が目指す将来像の実現に向けた道筋等をまとめた「ふるさと保全計画」を5地区（完成2地区、継続3地区）が策定しました。
- 荒廃農地の発生防止や解消につながる取組を実施し、人・農地プラチの実質化が334/405地域（進捗率83%）まで進んだほか、担い手への農地集積率も35.9%となるなど、今後も、地域の実情に合った荒廃農地対策を実施します。
- 農村の防災・減災対策を推進するため、地すべり対策・保全（17地区）や、ため池地震対策（22地区）、ため池整備（44地区）などを実施しました。